

# 青少年育成センターだより

第76号 2019.10.15

防府市教育委員会生涯学習課

青少年育成センター

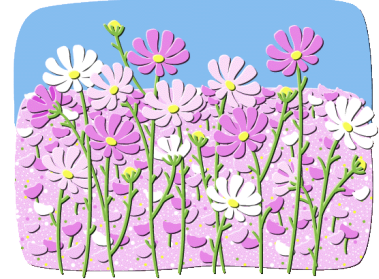
0835-23-3013



## 「子育て四訓」

- 1 乳児はしっかり肌を離すな
- 2 幼児は肌を離せ 手を離すな
- 3 少年は手を離せ 目を離すな
- 4 青年は目を離せ 心を離すな

(緒方甫＝山口県元教員)



これは、「子育て四訓」というものです。これまで聞いたことがある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

みなさんの子どもは、乳幼児期であったり、青少年期であったりそれぞれでしょう。この「子育て四訓」は、子どもの成長発達の時期により、子どもへの接し方が違うことを教えてくれます。子どもへの接し方についての参考にしてみてください。しかし、どの時期でも、愛情をたっぷりかけることは忘れないようにしましょう。

## 子どもと会話していますか

これまで、この“青少年育成センターだより”で、「スマホの使い方について話し合ってみましょう」とか、「『福澤心訓』をもとに話し合ってみましょう」と親子での会話を勧めてきました。いかがでしょうか、みなさんの家庭では親子の会話をどれくらいされているのでしょうか。

子どもとの会話は、「勉強をきなさい」「ゲームはいい加減にきなさい」などと、会話というよりは、親が一方向的に子どもに指示するだけのことが多いのではないのでしょうか。私のこれまでの子育てもそのようなことが多かったように思います。

では、どのような会話をすればよいのでしょうか。内容はいろいろあります。テレビのニュースと一緒に見ている時に「あなたはどう思う？」と投げかけ、子どもの考えを聞きます。そして「お母さんはこう思うの」と自分の思いを伝えます。また、お母さんだけでなく、「お父さんはこう思う」とお父さんが会話に入ってもよいのです。お父さんとお母さんの意見が違ってよいでしょう。ニュースだけでなく、ドラマを見ての感想やお父さん、お母さんの趣味や専門分野の話でも何でもよいと思います。お父さん、お母さん、子どもの三者で「人生」「生活」「社会」などについて、話し合ってみましょう。

よく、当然のように「反抗期に入ってから子どもとの会話は少なくなった」と言われる方も多いです。しかし、子どもが小さい時期からこのような会話をしておられる家庭は、「うちの子は反抗期なのですが親とも話をよくする、反抗も少ない」と言われる家庭も多いのです。親子で会話をすることで、親子断絶ということもなくなります。

また、親子で会話をすることで「自分の考えをまとめることができる」「人の話を聞いて、自分の考えを改めることができる」「自分の考えをうまく伝えることができる」など様々な力を身につけることができるという利点もあります。まさに、“生きる力”を家庭でも身につけさせることができるのです。

今日から、少しずつでも子どもと話し合ってみませんか。

(文責＝青少年育成センター指導員 藤村)